クール目　day

アバスチン＋FOLFOXIRI療法を受けられる方へ

外　科　ID:　　様

担当薬剤師

【投与スケジュール】

	1 日目	2 日目	3～14 日目
アバスチン	○		
イリノテカン	○		
オキサリプラチン	○		
フルオロウラシル	○		
フルオロウラシル(持続)	○		

☆ 2 週間毎に繰り返し行います。
☆ 検査の結果によってスケジュールや投与量が変わることがあります。

【点滴内容】

生食　100mL
プロイメンド　150mg
↓ 30 分
アロキシバッグ　1P
デキサート　9.9mg
↓ 15 分
生食　100mL
アバスチン　mg
↓ 30～90 分
生食　250mL
イリノテカン　mg
↓ 60 分

5%ﾌﾞﾄﾞｳ糖液　100mL
レボホリナート　mg
↓ 120 分

5%ﾌﾞﾄﾞｳ糖液　250mL
オキサリプラチン　mg
↓ 120 分

生食　50mL
↓ 全開

《ﾘﾆｱﾌｭｰｻﾞ－DIB》
5%ﾌﾞﾄﾞｳ糖液　mL
フルオロウラシル　mg
ヘパリン　5mL
↓ 48 時間

＊抜去＊

プロイメンド
アロキシ
デキサート
：吐き気を抑える薬です。

アバスチン
イリノテカン
オキサリプラチン
フルオロウラシル
：がん細胞の増殖を抑える薬です。

レボホリナート：5-FU の効果を高める薬です。

ヘパリン：管の中の血液を固めにくくする薬です。

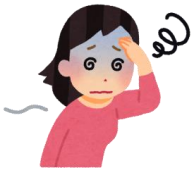
【主な副作用と対策】

ｱﾅﾌｨﾗｷｼｰ様症状：お薬を投与することで、アレルギーに似た症状が発現することがあります。息がしにくい、胸が締め付けられる、といった症状がある場合にはすぐに知らせてください。

末梢神経障害：**急性**；オキサリプラチンを投与後、手や足、口の周りがしびれたりすることがあります。特に、冷たい空気にさらされたり、冷たいものに触れることで症状が出やすくなります。2-3 日たてば治ることがほとんどですが、治療を長く続けると回復しにくくなります。

遅発性；治療を長く続けると、持続的なしびれや痛みが出てくることがあります。ボタンがかけにくい・字が書きにくいといった症状が出てくるようでしたらお知らせください。

白血球減少：投与後 7～14 日頃に最も減少すると言われています。
白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、
風邪などの感染症を起こしやすくなりますので、
うがい・手洗い・マスクといった感染予防を心がけましょう。



赤血球減少：血液の赤い成分が減少することで、めまいやふらつき、
疲れやすくなるといった副作用が起こることがあります。
十分な休息をとりましょう。

血小板減少：投与後 7～21 日頃に最も減少すると言われています。原因不明のあざ・鼻血・歯茎からの出血・頭痛などが起こることがあります。出血しやすくなりますので、怪我や転倒には注意してください。

食欲不振・悪心・嘔吐：投与後～2-3 日ほど現れることがあります。あらかじめ吐き気止めを投与していますが、他の薬もありますのでつらい時には申し出てください。また、食事はにおいの少ないもの・冷たいもの・食べられるものを少しずつ、食べられる分だけ摂取するようにしましょう。

下痢：排便回数が増えたり、下痢になったりすることがあります。
下痢をしている間は脱水にならないように水分摂取をしましょう。
症状によっては下痢止めを使用することがあります。
また、1 日に 4 回以上の下痢や血の混じった便が出るときには連絡してください。

便秘：水分を摂取したり、お腹のマッサージをしましょう。下剤や便を軟らかくする薬も使います。

脱毛：投与後 14～21 日経つと抜け始めます。
治療終了後 6 ヶ月ほどで生えそろってきます。

口内炎：食後に歯磨きをするなど、口の中は清潔に保っておきましょう。

味覚障害：食べ物の味が変わって感じることがあります。治療が終了すれば徐々に治ります。

色素沈着・爪の変形：皮膚や爪の色が着色したり、爪が変形してしまうことがあります。
長い時間直射日光にあたらないようにしましょう。
治療が終了すれば徐々に元に戻ります。

発疹：皮膚が赤くなったり、かゆみが出ることがあります。ひどい場合には知らせてください。

腸管穿孔：稀ですが腸に穴があいてしまうことがあります。
今までに経験したことのないようなお腹の痛みがある場合には、我慢せず、病院へ連絡してください。

創傷治癒遅延：お薬の影響で傷が治りにくくなっていますので、怪我には十分注意しましょう。

血栓症：血栓ができやすくなっています。
足がむくんだり、痛くなったり、突然息切れがするようなことがありましたら知らせてください。

粘膜からの出血：血が止まりにくくなっています。
怪我には十分注意しましょう。
圧迫止血などをしても血が止まらない場合には連絡してください。

高血圧：血圧が高くなることがあります。もともと血圧を下げる薬を飲んでいる方は特に注意してください。
自宅での血圧測定をお勧めします。

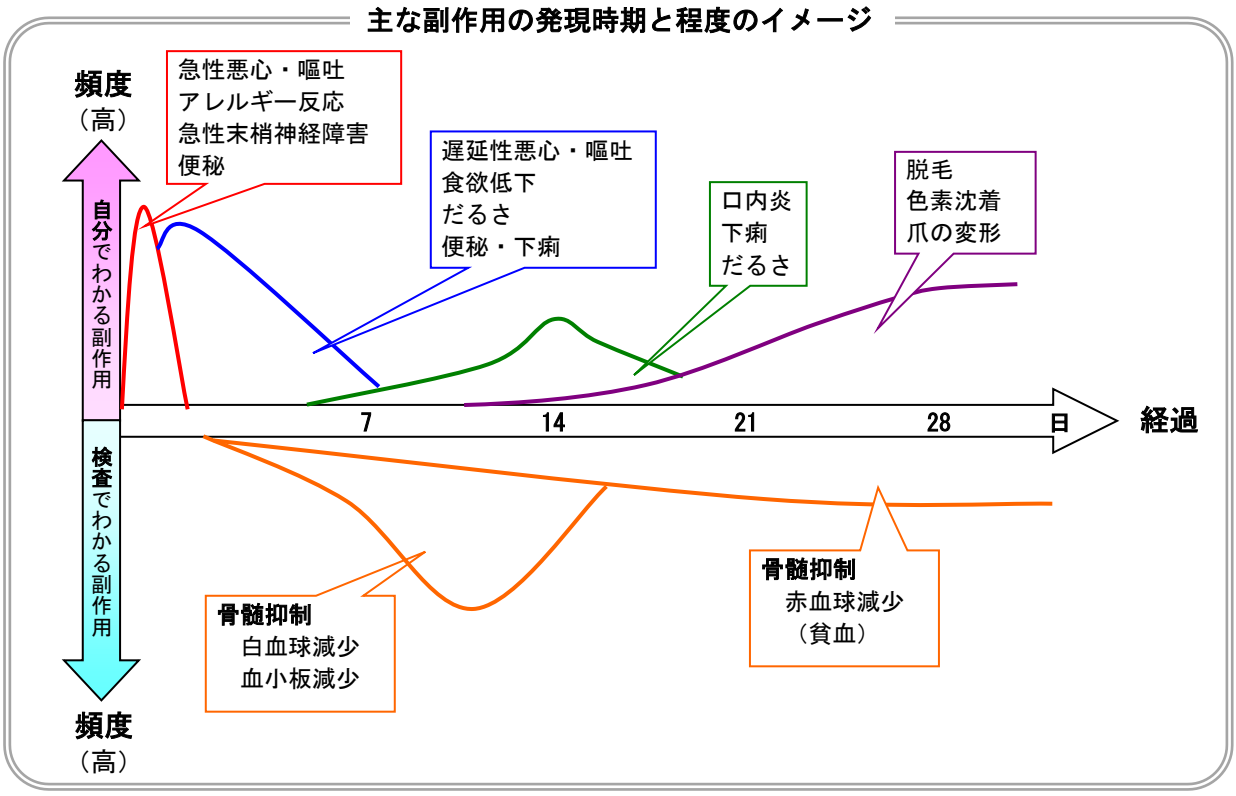
たんぱく尿：おしっこにたんぱくが混じることがあります。

腎・肝障害：お薬によって腎臓や肝臓に影響が出る場合があります。

心障害：薬の影響で心臓に負担がかかることがあります。

間質性肺炎：非常に稀ですが、薬の影響で肺炎が起こることがあります。
咳・発熱・息切れといった症状が続くようでしたらお知らせください。

血管外漏出：針の刺入部の皮膚が赤くなる・腫れる・痛い・熱っぽい・かゆみが出るなどの症状が現れる場合があります。異常を感じたらすぐに知らせてください。（CV ポート）



【内服薬について】

＊この治療を受けられる方には、吐き気止めとして内服薬が処方されます。

口 デカドロン錠 4mg　：1日2回　1回1錠　朝・昼食後　（2 - 4 日目）

副作用の全てが現れるわけではありません。
また、これら以外の副作用が現れる場合もあります。
気になる症状がありましたら必ず医師・薬剤師・看護師にご相談ください。
この説明書はかかりつけ医やかかりつけ薬局薬剤師にもお見せください。

お薬に関する相談先
北信総合病院　(代表)0269-22-2151
薬剤部　医薬品情報管理室　内線　2530